

日常生活から見える認知症のサイン ～交通事故を起こさないために～

神経科医長 岩田 健

昨年3月に、認知症機能を強化した改正道路交通法が施行されました。それまで、75歳以上の運転者は3年に1回の免許証更新時に認知機能検査を受けることになっていましたが、この改正により、①免許更新時でなくても一定の違反行為をしたときには臨時認知機能検査を受ける、②検査で「**認知症のおそれ**」と判定された場合には医師の診断を受ける、ということになったのは、ご存じの方も多いと思います。

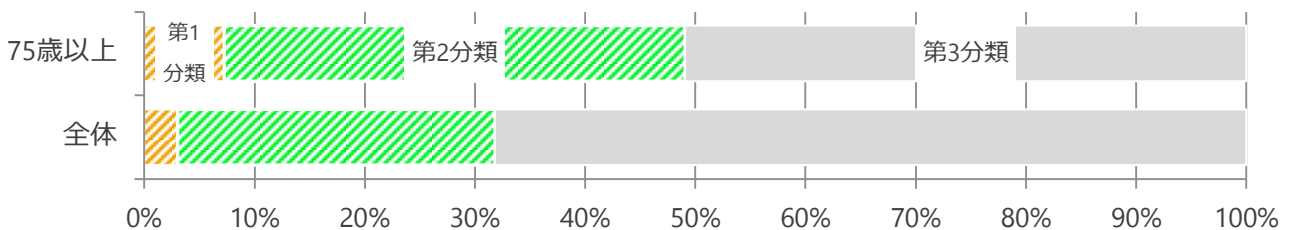
認知機能検査と交通事故のかかわり

このように認知機能検査が強化された背景には、警察庁の行った統計で、**認知機能の低下が死亡事故の発生に影響を及ぼすと考えられる**結果がでたことがあります。

最新の統計をみると、死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者は、全受検者と比較して、直近の認知機能検査の結果が第1分類（認知症のおそれ）・第2分類（認知機能低下のおそれ）であった者の割合が高くなっています。

図1 認知機能検査結果の比較

■ 第1分類 ■ 第2分類 ■ 第3分類



上：平成29年中に死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者（原付以上第一当事者）の検査結果
下：平成27～29年中の認知機能検査受検者の検査結果
（出典：警察庁「平成29年における交通死亡事故の特徴等について」）



認知機能検査
結果の分類

第1分類	認知症のおそれあり
第2分類	認知機能低下のおそれあり
第3分類	認知機能低下のおそれなし

第26回都民公開講座のご案内

テーマ みんなでやろう薬剤耐性菌対策 抗菌薬が効かなくなる前に
講師 当院感染症内科医長 山内 悠子 医師
日時 平成30年9月7日（金曜日）午後7時～午後8時／開場午後6時
場所 当院別館3階大会議室

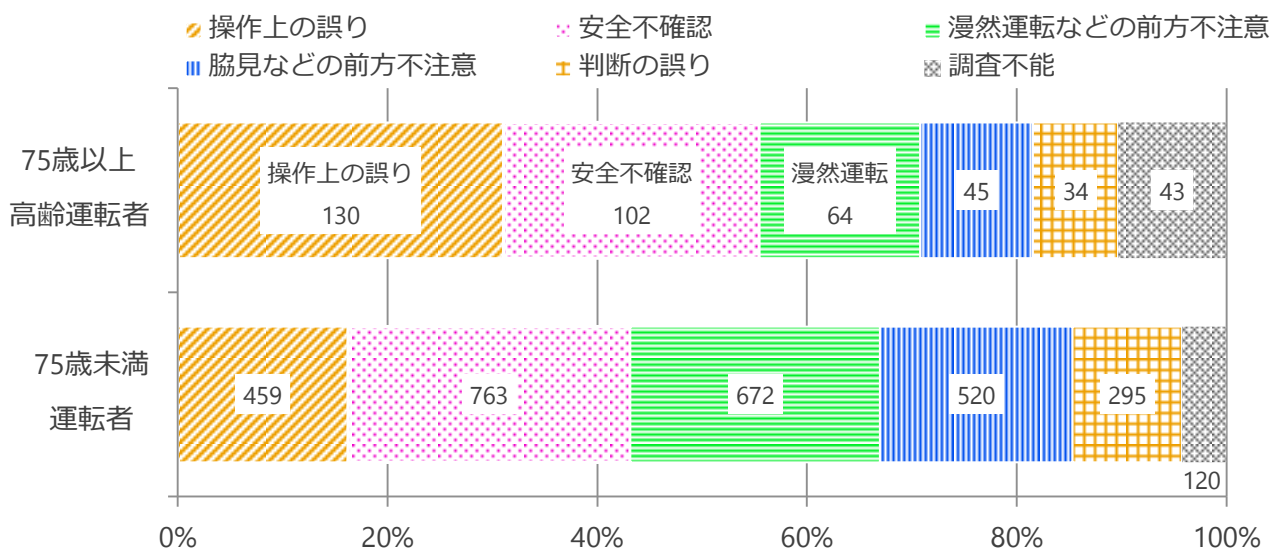


高齢運転者が起こす交通事故の原因

高齢者が起こす死亡事故の要因としては、次のものが比較的多くなっています（図2）。

- **アクセルやブレーキの踏み間違い**などの操作上の誤り
- **漫然運転**などの、考え事や会話等による意識や注意力の低下による危険の発見の遅れ
- 危険がないと判断して**必要な安全確認をしなかったことや不十分だったこと**による発見の遅れ

図2 死亡事故の人的要因比較



（出典：警察庁「平成29年における交通死亡事故の特徴等について」）

日常生活から見える注意力の低下

認知症≠物忘れということではありません。むしろ、認知症の初期においては多くの場合、**茫然としており話しかけても聞いてないことが多くなる**、などの注意力の低下が最初の症状としてあらわれます。

そして、認知症が進行すると、記憶力を含む複数の能力が落ち、機械の操作などを間違える頻度も、物忘れが目立つ頃には多くなることが分かってきています。**普段使っているテレビや電子レンジの操作を間違えたりするようになってくると**、車の操作ミスを起こす可能性が高いと考えてよいでしょう。

気になる方は、かかりつけのクリニックで診てもらいましょう。

｜発行｜東京都立広尾病院広報委員会

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿2-34-10 電話番号03-3446-8331（予約専用）

URL <http://www.byouin.metro.tokyo.jp/hiroo/>